

平成 30 年度 日本救急撮影技師認定機構主催 「救急撮影講習会 in 倉敷」 参加報告記

岡山大学病院 医療技術部 放射線部門

星加 美乃里

平成 30 年 5 月 13 日、川崎医科大学で開催された救急撮影講習会「クセがすごい?!～小児救急の世界～」を受講しました。

小児救急は成人とは異なる特有の問題に直面することが多々あります。昨今話題の虐待にはじまり、意思疎通、鎮静、被ばく、両親への対応等、その都度柔軟に対応していかなければなりません。そのなかで、各モダリティにおける小児救急のポイントを詳しく教えていただきました。小児医療に特化していない病院では、我々診療放射線技師が関わる小児救急で判断に困ることも少なくないかもしれません。だからこそ、いざという時の正しい知識や経験が必要になると痛感しました。

特に、「・・・の知らない小児救急の現状と課題－臨床からわかるもの－」で小児科医である宮本先生の講演は大変興味深く拝聴させていただきました。小児特有の異物誤嚥は、新しい製品が出回る度に必ず新しい障害が発生し、大人では想像できないようなことが起こる現状を知ることができました。注意喚起や製品の改良・発売停止等の対応は、子供達の事故が起こった結果だと思えば難しい問題であると同時に、情報共有の重要性も感じました。訴えができない子供達だからこそ、画像診断が重要であり、多くのことを想定して検査しなければなりません。虐待特有の症状の解説もあり、常に念頭に置いて診療されていて、臨床現場での診断の苦慮がうかがえました。

加えて、災害医療の講演も大変興味深い内容でした。DMAT の活動を中心に災害現場の実情を詳しく教えていただきました。東日本大震災・熊本地震の現場の様子・問題点を多くの写真とともに解説いただき、会場にいた聴衆の多くが息をのんで聞き入っていたと思います。診療放射線技師として、そして医療従事者として、災害医療に真剣に取り組まなければならないという熱いメッセージが強く心に突き刺さる講演でした。

今回の講習会に参加したことで、小児救急の理解を深めることが出来ました。今後、救急のみならず、小児の医療に生かしていきたいと思います。最後に講習会を開催していただいた日本救急撮影技師認定機構の皆様並びに講師、実行委員の皆様にご感謝を申し上げます。

平成 30 年 6 月吉日

